

8 管理方法 ①砂式（循環型一般浴槽）

浴槽水の換水と浴槽の清掃

使用日ごとに完全に換水することが原則です。

換水により、浴槽中の汚れなど細菌の栄養源となるものを直接排出することができますので、使用日ごとに換水することが原則です。

どうしても使用日ごとに換水できない場合は、少なくとも週に1回以上完全に換水する必要があります。また、換水した時は必ず浴槽を清掃します。

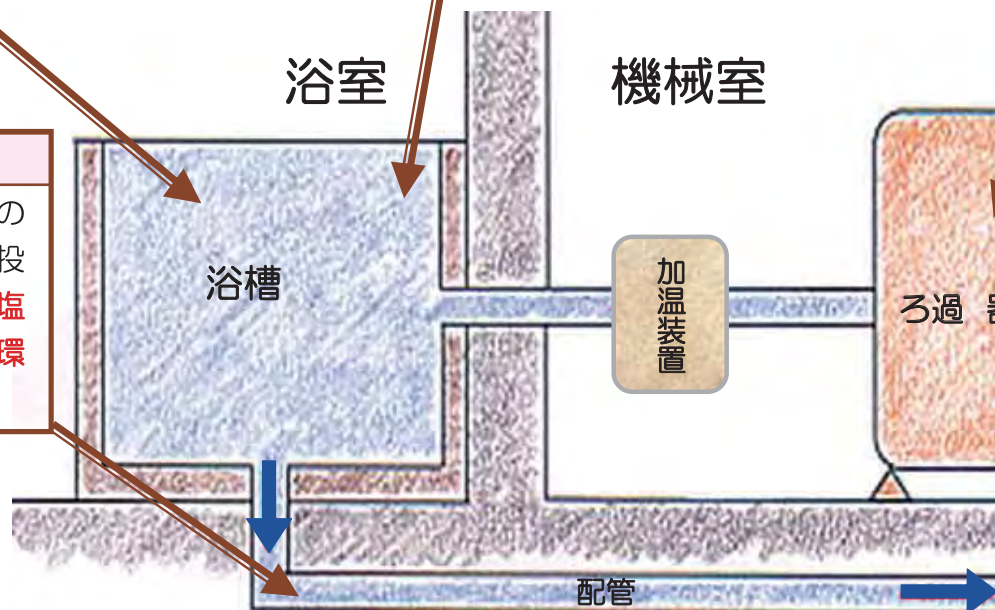
浴槽水の消毒

浴槽水の消毒についてはP21へ。

配管の消毒

週に1回以上、浴槽に通常の10倍程度の塩素系薬剤を投入し、5~10mg/Lの残留塩素濃度の浴槽水を数時間循環させます。

浴槽に気泡発生装置やジェット噴射装置などエアロゾルを発生させる設備を設置している場合は、浴槽水を毎日換水します。



使用日ごとの清掃では、

浴槽水の換水と浴槽の清掃→集毛器の清掃 を行います。

使用日ごとに換水できない施設では、使用時間外も残留塩素濃度を0.4mg/L以上に保ちましょう。

週に1回以上の清掃では、

集毛器の清掃→ろ過器の逆洗浄→配管の消毒→浴槽水の換水と浴槽の清掃 を行います。

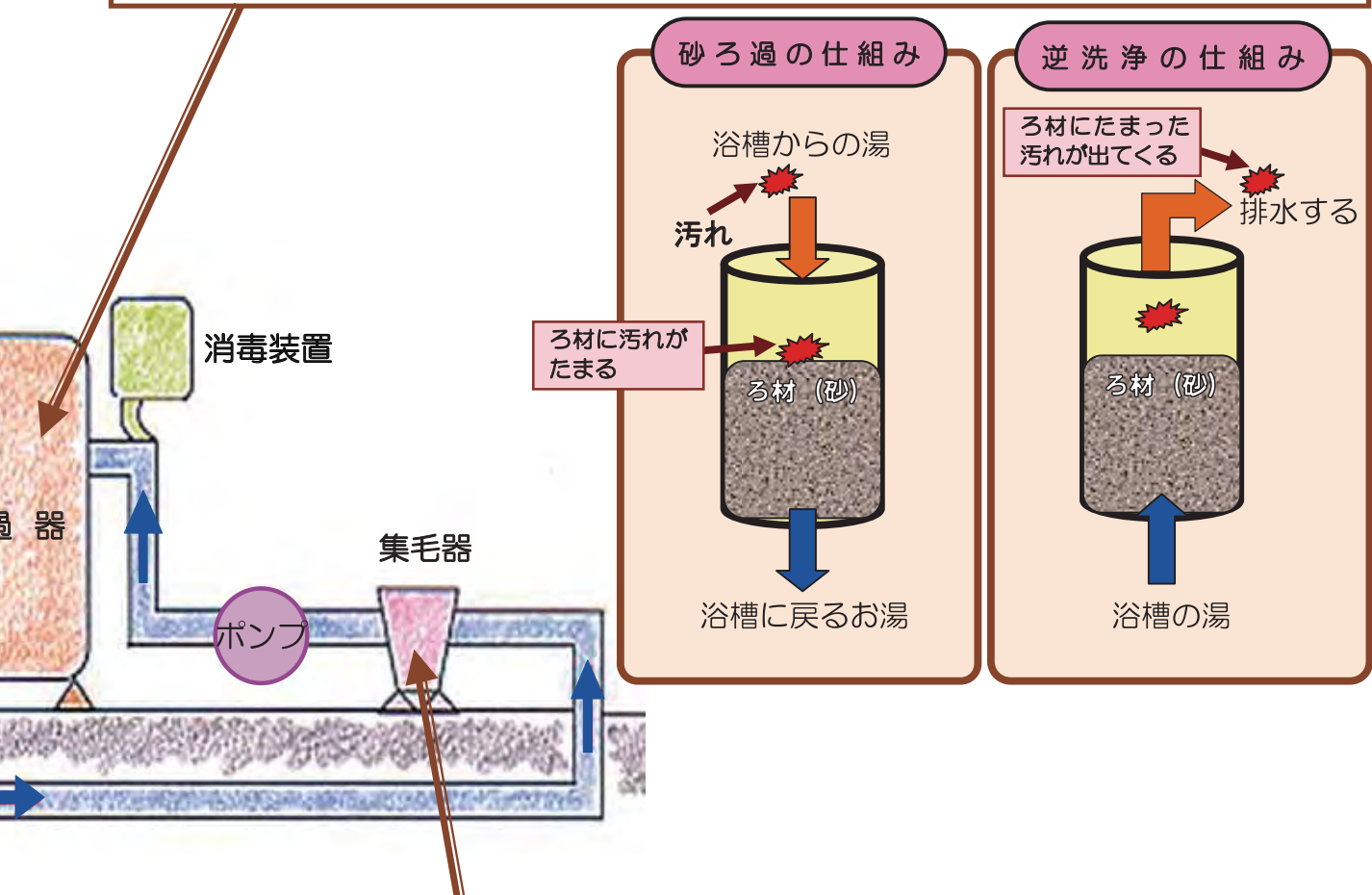
上記に加え、年に1回以上は専門の業者による配管等の洗浄・消毒を行いましょう。

ろ過器の逆洗浄（砂式）

週に1回以上逆洗浄をし、物理的に汚れを排出させましょう。

使用につれ汚れが砂に溜まるので、週に1回以上は通常の水の流れと逆方向に水を噴出させて、汚れを強制的に排出することが必要です（これを**逆洗浄**と言います）。

逆洗浄により汚れを排出させることができるため、レジオネラ属菌が増殖しにくいろ過器です。



集毛器（ヘアキャッチャー）の清掃

集毛器は特に「ぬめり」がしやすい場所ですので、**使用日ごとに蓋を開けて中のバスケットを取り出し清掃します。**

その際、バスケットを塩素系薬剤で消毒すると良いでしょう。



集毛器（ヘアキャッチャー）



バスケット

蓋を外してバスケットを取り出したところ

8 管理方法 ②カートリッジ式（循環型一般浴槽）

浴槽水の換水と浴槽の清掃

使用日ごとに完全に換水することが原則です。

換水により、浴槽中の汚れなど細菌の栄養源となるものを直接排出することができますので使用日ごとに換水することが原則です。

どうしても使用日ごとに換水できない場合は、少なくとも週に1回以上完全に換水する必要があります。また、換水した時は必ず浴槽を清掃します。

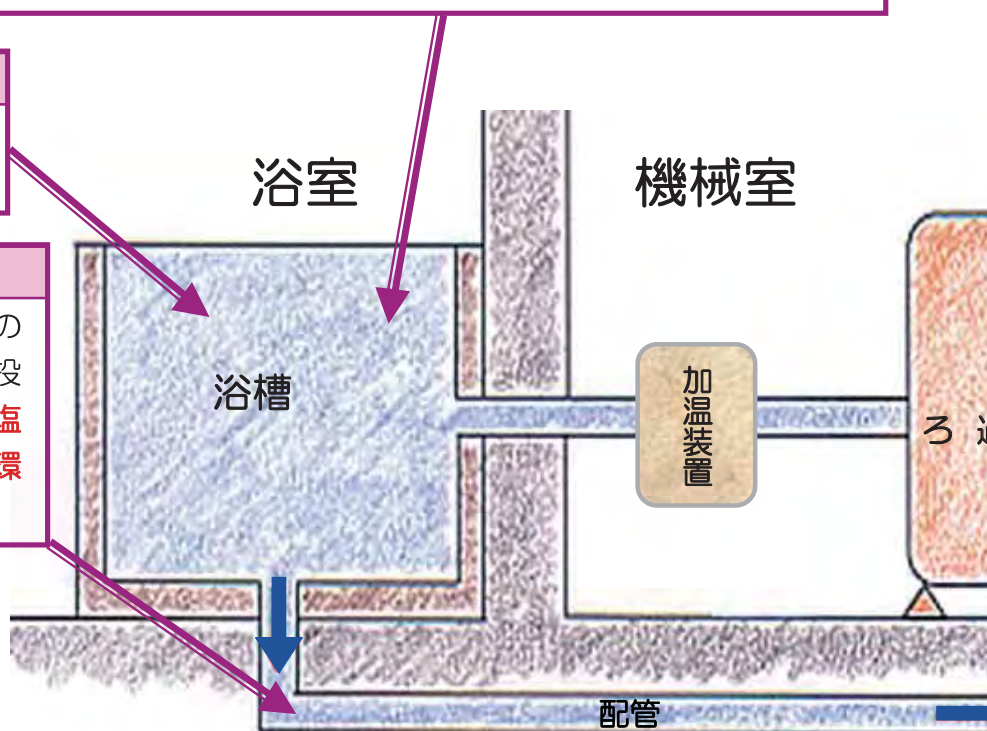
浴槽水の消毒

浴槽水の消毒についてはP21へ。

配管の消毒

週に1回以上、浴槽に通常の10倍程度の塩素系薬剤を投入し、**5~10mg/Lの残留塩素濃度の浴槽水を数時間循環させます。**

浴槽に気泡発生装置やジェット噴射装置などエアロゾルを発生させる設備を設置している場合は、浴槽水を毎日換水します。



使用日ごとの清掃では、

浴槽水の換水と浴槽の清掃→集毛器の清掃 を行います。

使用日ごとに換水できない施設では、使用時間外も残留塩素濃度を 0.4mg/L 以上に保ちましょう。

週に1回以上の清掃では、

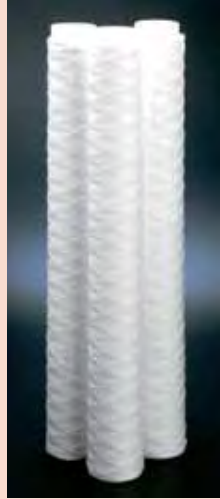
集毛器の清掃→配管の消毒とろ過器の管理→浴槽水の換水と浴槽の清掃 を行います。

上記に加え、定期的ろ過器のカートリッジを交換し、

年に1回以上は専門の業者による配管等の洗浄・消毒を行いましょう。

ろ過器の消毒（カートリッジ式）

配管消毒と同時にろ過器の消毒を行います。（配管の消毒参照）
ろ過器の汚れがひどい場合は、残留塩素濃度が洗浄中に急激に低下することがありますので、必要に応じ塩素系薬剤を追加投入します。

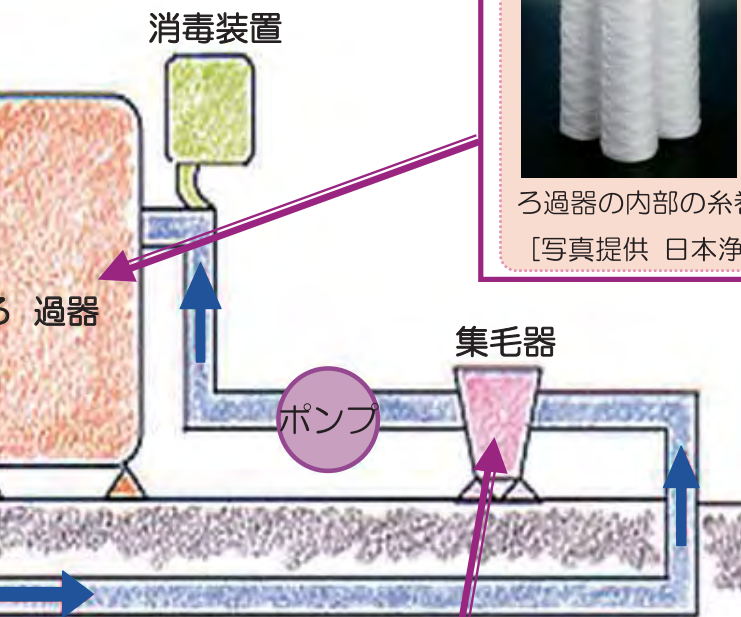


カートリッジ式ろ過器とは？

カートリッジ式ろ過器は糸巻きフィルタをろ過能力に応じた本数、ろ過器のタンク内に収めたものです。
糸巻きフィルタは使い捨てです。
取扱説明書等を参考に、ろ過能力が落ちてきた場合は糸巻きフィルタごと全て交換します。

ろ過器の内部の糸巻きフィルタ

[写真提供 日本浄水機械工業会]



集毛器（ヘアキャッチャー）の清掃

集毛器は特に「ぬめり」がしやすい場所ですので、**使用日ごとに蓋を開けて中のバスケットを取り出し清掃します。**

その際、バスケットを塩素系薬剤で消毒すると良いでしょう。



集毛器（ヘアキャッチャー）



バスケット

蓋を外してバスケットを取り出したところ